

お汁(お汁講)

徳田地区には明治時代初め頃より引き継がれているお汁(お汁講)と呼ばれている行事が今も続いています。

●どんな内容の行事ですか

毎年12月中頃になると地区民(組員)は順番制で決められた宿(家、又は集会所等)に集まり仏壇にお参りし、全員でお勤めをします。(地区により檀家の住職さんが見えてお勤めをする場合もあります)。終了後は次のような打ち合わせ会をします。会の推進責任者は組長さんです。

- ①お寺(檀家)関係の報告(決算、次年度計画、役員改選)
- ②自治会(地区、組)関係の報告(決算、次年度計画、役員改選)
- ③その他

※打ち合わせに要する時間は地区、議題により差はありますが一般的には午前中に終了しています。

※実施日はお寺の決算(寺割)後の適切な日を選んでいきます。

●昔(昭和初期頃)のお汁はどんなものでしたか

地区、宗派によりある程度の差はありますが…

- ①お勤め後の打ち合わせ内容は特に寺(寺割、葬儀、他の発生経費)に関する話題が中心で、時間は半日から一日かけて、かなり長く行なわれていたようです。
- ②食事はその担当の宿で用意され、材料は基本的にはそれぞれ自分の家で収穫されたもので賄われていました。(持ち寄り野菜等もあったそうです)
購入品としては主に酒、鶏肉、魚、調味料(しょう油、砂糖、酢)でした。
- ③その他の発生費用や主な準備は皆で分担し、お汁を進めました。

※このように宿(家)を順番に廻りゆっくりと時間を掛けて皆で食事をしながら打ち合わせを行うことが一年の中での一番の楽しみだったのかも知れません。

※その年の宿担当は準備等で大変忙しかった様です。

●本来のお汁講の意味

宗教行事として進められてきたもので親鸞聖人(浄土真宗の開祖)の命日(11/28、旧暦)に併せて実施されており、詳細資料は存在しませんが歴史的にはかなり古くからこの会合はあった様です。

※汁…味噌汁(しる物)。

※講…仏教の講話を聴くために集まる人々の集会を意味した。

※尚現在では信仰とは無関係の地縁的(地区、組等)な組織の団体を言うようになって来ています。

●現存する当時のお汁講控え帳
(代表地区のサンプル)



現在残っている当時のお汁講内容の
控え記録です(和紙製、手書き)。
明治44年より平成3年までの記録(3冊)が
あり一冊で大きさは約、縦33cm、横12cm
でそれぞれ50ページ位あります。

- ※記録されている主な内容は寺割額、お汁経費、葬儀関連等です。
- ※昭和時代後半より記録媒体も変わりワープロ→パソコンとなり当時の控え帳は廃止(地区により差はありますが)されつつあります。

以上は住職さんや年配の方々の話を参考にしています。

2017/2月 H.A